

# 武力脅威が心配される中国の歴史的考察

2022-4-10

(習近平体制 3 期目突入に伴う武力リスク)

石平著

『新中国史』より

(文責 和田)

考古学的にその実在が確定された最初の王朝殷王朝の成立から今日まで約 3600 年の中国の歴史に於いて、国の統治の仕方を見ると大きく二つの型が見られ、その栄枯盛衰も二つの型に分けられる。

本年（2022 年）秋の中国共産党大会に於いて習近平政権が 3 期目に突入する見通しであるが、統治の型の一つである「皇帝」としての独裁的地位を固め、3 期目(5 年)を統治するとなれば過去の歴史的観点からしても周辺世界にとって最も危険な時期になる恐れがある。

統治の二つの型、即ち「王の時代」と「皇帝の時代」を紐解きながら現代中国の武力脅威の可能性について分析する。

年代	中国統治の歴史
紀元前 1600 年頃	<b>殷王朝</b> 特徴 「王」の称号=最高の祭司でもある。王の交替制 <u>封建制度</u> 直轄する土地は都の周辺の「近畿」で少ない 領土の殆どを諸侯に「封土」として与え、諸侯による統治に委ねている。
民衆や農民による反乱が生じていない 民衆が反乱すべき支配者がいないシステム（血族集団を通じての支配）	天下国家は王の私物ではなく「公」的なもの
約 1000 年間	<b>西周王朝 「天下為公」</b> 日本の徳川時代の幕藩体制と類似している
紀元前 221 年から紀元前 207 年	<b>秦の始皇帝</b> により統一された王朝の統治体制とそれまでと異なる政治制度・社会システム 国王の称号に満足せず、新しく「皇帝」(天子)を称号とする。
圧政により 3 代で滅亡	

始皇帝による圧政  
人口2000万人から  
兵役へ110万人徴役 重  
い負担を強いる 万里の長  
城への徴用(200万人)

## 中央集権制度

領土を諸侯に分け与えるのではなく、皇帝支配の中央から派遣される官僚によって統治する制度。(郡県制) 郡県制の下では全国の土地と人民は全て皇帝の領有となり、皇帝の直接支配化に置かれる。全ての命令は皇帝から発せられ、意思決定の最終権限は皇帝の手の中にある「皇帝独裁の中央集権制度」である。

||

「一君万民」の政治体制

中国史上初めての民衆の反乱により滅ぼされた

「王の時代」との大きな違いは「公共性の喪失」であり、「天下の私物化」こそ「皇帝の時代」の最大の特徴である。「**天下為私**」

紀元前202年~紀元後8年

**前漢王朝** (劉邦による**皇帝支配**)

無為の統治により国民は安堵

劉邦により徐々に皇帝支配へ変化

25年~220年

**後漢王朝** (**皇帝支配**)

~280年

**三国時代**=三国志の時代

~316年

西晋時代 (全国統一)

~439年

異民族の北魏により南北分裂時代へ

581年

**隋王朝** (**皇帝支配**) による統一大帝国

2代目煬帝による暴君政治 (土木工事・異民族遠征)

618年~907年

**唐王朝** (**皇帝支配**) 強盛と繁栄の王朝

「黄巢の乱」大反乱により衰退

907年~979年

分裂「五代十国時代」

979年

**宋王朝** (**皇帝支配**)

— 北宋

— 南宋

1271年~1368年

**モンゴル族の元王朝** (**皇帝支配**) による全国支配

1368年~1644年

「紅巾の乱」民衆の大反乱から**明王朝の創建**

**明王朝** (**皇帝支配**) も長く続いたが1631年に中国史上最大規模の農民の反乱で皇帝の自殺により滅びた。

1636年~1912年

満州族による**清王朝** (**皇帝支配**) の成立

清王朝も 1851 年から十数年続いた「大平天国の乱」により苦しめられ帝国は弱体化し、1912 年の皇帝退位でもって中国の「皇帝の時代」は終わった。

中国人（特に知識階級）が理想とする時代は、遠い古の「王の時代」であり、現在を含む秦の始皇帝以後、今迄の「皇帝の時代」では決してない事は明白である。

「皇帝の時代」に必ずと言ってよい程反乱が生じているが、最大の理由は、「皇帝の時代」における皇帝とその一族による天下万民の私物化である。天下万民が抑圧と搾取の対象でしかなかったと言える。

又、「皇帝の時代」の権力闘争に伴う血まみれの殺し合いも特色の一つである。

1912 年

### 清王朝（皇帝支配）の終焉←孫文中心の革命

↓

皇帝支配は変わらず中華民国総統の称号

1911 年孫文を中心とする革命グループにより「満州駆逐、中華回復、民国建国、地権平等」をスローガンにした民族革命（辛亥革命）

1912 年 1 月 1 日

### 中華民国の建国宣言で初の共和国が誕生した

1912 年 1 月 12 日

清王朝「新軍」（軍隊を近代化した師団）の総司令官の袁世凱の裏切りにより皇帝の退位により清王朝が滅びた。

袁世凱の帝政復古の狙いから清王朝退位後 4 年で帝政が戻ったが、全国的な反発を招き、2 ヶ月後に退位。（その後病死）

軍閥支配の時代へ皇帝になろうとする者不在

革命をリードした孫文も皇帝になろうとしなかったし、その実力もなかった。

新皇帝による天下秩序の再建を求める世間

### 軍人蒋介石の出現（日本に軍事留学、孫文の追随者）

孫文の率いる革命組織を「中国国民党」と改称

蒋介石による国民革命軍の全国統一を目指した軍事活動（北伐戦争）

蒋介石が皇帝になれなかった理由

軍事的に統一ができなかった

1937 年の日本軍との虚溝橋事件からの戦争

毛沢東率いる共産党勢力の台頭。（ロシアにより支援と引き換えに国共合作を求められる）

1927 年	<p>蒋介石は国民党組織と革命軍に入り込んでいた共産党分子を排除（共産党による国民党の乗っ取りを察知して）</p> <p>国民党（蒋介石）と共産党（毛沢東）の決定的分裂と対立</p>
毛沢東のトップとしての地位確立	<p>共産党はその後2年間国民党に追われ、各地を転々としながら数千キロ移動し組織の再建を行った。その間 総司令官が周恩来から毛沢東に交替している。</p>
1937 年	<p><b>日本軍の本格的な中国全土への進撃</b></p> <p style="text-align: center;">↑</p> <p>国民党と休戦し「内戦終結・一致対日」を提案し第2次国共合作が成立。毛沢東は「抗日戦争」を蒋介石に任せて自身の共産党勢力の拡大に注力。</p>
1945 年 4 月 毛沢東の支配	<p>延安に於ける全国代表会議で「毛沢東思想」を党規に盛り込み、共産党内における地位を絶対的にした。</p>
1945 年 8 月	<p>日本の敗戦で日中戦争は終わり、中国共産党は国民党に代って中国を支配する方針を決める（国民党軍は日中戦争で消耗していた）</p>
1946 年 6 月より	<p><b>毛沢東による皇帝支配へ</b></p> <p>準備を整えた中国共産党軍は国内のあちこちで国民政府軍に攻撃を仕掛け、その後3年で国民政府軍を完膚なきまでに破り、蒋介石と国民政府軍を台湾へと追いやった。新しい首都を<u>北京</u>と定める（繁栄した明王朝と清王朝の京であった）</p>
1949 年 10 月	<p>新しい国家主席となった毛沢東による「中華人民共和国」建国を宣言した。</p> <p>「毛主席万歳」を式典で行わせる</p> <p style="text-align: center;">↓</p>
中国の「皇帝支配」の復活 27年間の支配	<p>中国で「万歳」を行うのは皇帝に対してのみ。</p> <p>毛沢東皇帝（主席）は、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○建国から1年間で「反革命分子鎮圧運動」と称して71万人を銃殺。数百万人を収監。</li> <li>○1957年「反右派闘争」を発動し知識人を中心に55万人粛清。</li> <li>○農村での人民公社制度の押し付けで史上空前の農民からの収奪で数千万人の餓死者を出した。</li> <li>○1966年から10年間「文化大革命」なる政治運動を展開し、後継者（劉少奇）を含む多くの仲間を粛清し、知識人・一般国民を迫害した。</li> <li>○皇帝に相応しい私生活（住宅・食事・趣向・蓄財）</li> <li>○権力闘争 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓かつての上司の周恩来に人気と権力が集中しないように常に対抗馬を</li> </ul> </li> </ul>

置く。

古参幹部高崗の起用と切捨て

- ✓解放軍大物の彭徳懐を「反党」のレッテルを張って失脚させる。協力は後に失脚させる元帥の林彪を使って行った
- ✓彭徳懐が問題指摘をした毛主席による「大躍進政策」により農村地域で大飢饉が起り数千万人の餓死者を出した→劉少奇と鄧小平による回復施策（後の両者に対する毛一族のネタミからの失脚へ）
- ✓紅衛兵を使って、民衆の「下剋上」を煽動し、政敵と目される一派の失脚を狙う。煽動は一般知識人や学校の教師に及び、「文化大革命」中に一億人単位の人々が何らかの迫害を受けた
- ✓軍の裏切りの心配から林彪集団への疑惑 ← 林一派の毛暗殺計画の失敗からソ連へ逃げる途中墜落死
- ✓周恩来対抗で江青グループの人材を周の上席につけたが失敗し、一方で対抗して周恩来/鄧小平グループが力を持ち江青グループと尽く対立して行く
- ✓周恩来のガン罹病に対し、毛主席の命令で告知をさせず、ガンの拡散後一転して13回の手術を行わせ、30kgまでにしたと云われている。
- ✓周無き後、指導者として鄧小平を起用せざるを得ないが、自分の死後を考え華国鋒を後継者に指定。

1959年～1961年

1976年9月

- ✓毛主席死去

華国鋒により毛夫人の江青4人組を逮捕（毛主席の後継者の予想外のまともな判断）

鄧小平時代

毛沢東政治の全体的な見直し

毛時代の経済政策の改革

人民公社の解体

市場の論理と競争の論理の導入

企業の生産意欲を刺激して生産性の向上

海外に対し「開放政策」で技術と資金を歓迎

人事・最高指導部幹部の定年制導入

総書記・国家主席…2期10年

鄧小平死後の最高指導者も皆ルールを守った

個人独裁に終止符を打った

鄧小平の後の江沢民も胡錦濤も定められたルールの2期10年の任期を守り、習近平につなぐ。

2012年11月

習近平体制の始まり（太子党派幹部の一人）

第1期5年間で党内反対勢力を「腐敗撲滅運動」を通じて一掃して自らの権力基盤を固めた。

1期5年で習体制の固まり

2012年11月から2017年春までの第1期5年間で25万人以上の共産党幹部が腐敗の摘発を受けて失脚したり、刑務所入りになっている

↓

実際は「選別的な腐敗摘発」で習近平総書記に不服な奴は漏れなく摘発するが、絶対服従していれば目をつぶるとのメッセージを発し、それまで腐敗にどっぷり浸っていた共産党幹部の大多数が習近平に絶対服従を誓うことになり、習近平の個人独裁体制はわずか5年で出来上がった。

2017年10月

中国共産党第19回大会…**習体制2期目**

習近平の政治上の独裁者にプラスして思想上・精神上的「教祖的」立場に立った

「習近平思想」の規約への盛り込みで共産党政権の「指導的思想理念」として掲げられた。

↓

強い立場の「新皇帝」

政治局員25名中12名が習のグループで10名が一匹狼…**「現代中国の初代皇帝」**

毛沢東時代以上の側近政治が行える体制になっている

2022年10月

中国共産党第20回大会…**習体制3期目の予定**

毛沢東を除き今迄の最高幹部は2期10年の任期を守って来たが、予想では習近平は異例の3期目(5年)を中国共産党総書記及び中華人民共和国主席として**中国の皇帝**になる事が必至である。名称は総書記・主席でも実質皇帝として独裁専制の中央集権制を行うので中国の歴史上**皇帝**として実行すべき仕事がある。

(中国の皇帝観)

皇帝は中国という一つの国の皇帝ではなく、「天」に代って「天下」を支配する最高主権者と位置づけられる。従い、中国の皇帝は中国大陸だけを支配するのではなく、周辺民族と国々をも支配しなければならないとする責務を担っている。周辺民族征服の「偉業」を成し遂げて初めて歴史に名を刻む皇帝=真命天子とされる(清朝2代目の康熙帝による台湾征服、チベット・モンゴルへの遠征と支配の如く)

毛沢東も実質皇帝として君臨した27年間に中国人民に対しひどい圧政を行うと共に新疆ウイグルを占領し、独立国家であったチベットを征服し支配地区としている。その他インド及びソ連との国境紛争も起こしているが失敗に終わっている。

新皇帝習近平の目論み  
最も危険な3期目の習近平

終身国家主席(皇帝)=習近平の目論み  
侵略的覇権主義路線への切換へ  
民族の偉大なる復興(中華帝国の栄光と覇権)



台湾の奪回（祖国統一・台湾併合）  
南シナ海を中国の内海化とし、「一帯一路」の完成を目指す  
尖閣諸島を奪取する野望の具体化

### 習近平が恐れている事

「皇帝の時代」の歴史を振り返ると、この体制の支配には必ず民衆の反乱が起こり、体制が崩壊している。中途半端に資本主義化した中国社会で人民の意に反する圧政や経済不振が起これば、中国内部からの崩壊も予想され、習近平自身も十分この事は理解しているので舵取りには注意するものと思われる。中国人民が不満とする対中国施策が習体制の武力脅威を抑える有効な手段と考える。

一方で、台湾を含む周辺での武力闘争が長引けば（ロシア・ウクライナ戦争の如く）中国経済が麻痺することは必至で、それを恐れて早期決着の為の核兵器使用が心配される。（和田見解）

(和田見解)

ロシア/ウクライナ戦争に見られる「ハイブリッド戦争」に日本はどのように対抗すれば良いのか？ 中国も以前から仕掛けてきている。

### ハイブリッド戦争

(近年の新しい戦争形態)

ハイブリッド戦争＝政治的目的を達成するために軍事的脅迫とそれ以外の様々な手段（政治・経済・外交・サイバー攻撃・プロパガンダを含む情報・心理戦等のツールの外、テロや犯罪行為を組み合わせた非正規と正規戦を組み合わせた戦争の手法）

(ハイブリッド戦争にどのように対抗すれば良いのか)

敵を知る（国民にも知らせる）

レッド・ラインを設ける（超えては行けない一線）

敵が負担するコストを引き上げる

防衛力を強化する

攻撃力の整備を行っておく

サイバー攻撃への対処と攻撃の結果を相手に警告する

サイバー領域と宇宙の為の新たな条約の締結

同盟の維持・強化

良いリーダーシップを有するリーダーを持つ

以上